

2009年4月24日

<参考資料>

米国デュポン社、2009年第1四半期の業績を発表 世界的な景気低迷の下、競争力強化に向け対策の拡大へ

米国デュポン社（本社：デラウェア州ウィルミントン、社長兼最高経営責任者：エレン・J・クルマン）は、4月21日（米国時間）、2009年第1四半期（1月～3月）の業績を発表しました。

要約

- 2009年第1四半期の1株当たり利益は54セントで、予想通りの業績となった。今期の業績は、農業・食品関連事業および医薬品事業からの利益、全社的な強気の価格設定とコスト意識を反映したものであるが、世界的な需要減の影響により部分的に相殺されるものとなった。
- 農業・食品関連事業部門の業績は堅調で、大幅な為替差損の影響を受けながらも、北米地域での販売量の増加と種子価格の大幅な上昇により、6%の増収、8%の増益を達成した。
- デュポンは2009年の固定費削減目標を10億ドルに拡大し、設備投資額については、さらに2億ドルを削減する14億ドルに修正した。
- 世界の市場は農業関連分野を除き、引き続き厳しい状況になるとの見方から、同社は2009年通期の利益予想を下方修正し、1株当たり1ドル70セントから2ドル10セントまでの範囲とした。
- 当社は第2四半期の配当について、第1四半期と同じ1株あたり41セントとした。これにより、当社は連続419回にわたり配当を実現することとなる。

「第1四半期は、農業・食品関連および医薬品事業の堅調な業績と、価格設定への意識、コストおよび設備投資の削減が功を奏し、過去数十年で最悪の産業財需要の低迷による影響と相殺することができた」とエレン・J・クルマン最高経営責任者は語っています。「昨年12月に公約したとおり、積極的なコスト管理、生産性の向上、より効率の高い運営を強化しながら、困難を増す経済状況に対応していく」

「当社の経営チームは、1930年代以来最悪の世界規模の不況に際し、緊張感と敏捷性をもって先を走り続けている」とクルマンは語っています。「先手を打つことで当社の強みであるキャッシュの創出を確保しつつ、世界市場の回復とともに事業の収益性を高めていく」

グローバル・デュポンの連結売上高の概要

2009年第1四半期の純利益は前年同期の11億9,100万ドルに対し、4億8,800万ドルであった。当期の連結売上高は、販売量の19%減およびポートフォリオの変化に伴う1%の純減を反映し、前年同期比20%減の69億ドルとなった。現地価格の5%増は、為替差損5%で相殺された。販売量の減少は、主に建設および自動車製造業、個人消費の低迷を反映したもので、サプライチェーンの大半で生じている在庫調整が、その低迷を増幅させるものとなった。2009年第1四半期の世界および地域別売上高については以下のとおり。

＜事業部門の地域別合計売上高＞

	事業部門合計売上高		要因別増減率 (%)			
	2009年第1四半期 (10億ドル)	対前年同期比増減率 (%)	現地価格	為替の影響	販売量	事業ポートフォリオ/その他
米国	3.1	(9)	6	-	(14)	(1)
ヨーロッパ	2.1	(28)	3	(11)	(20)	-
アジア太平洋	0.9	(28)	5	(1)	(31)	(1)
カナダ、中南米	0.8	(22)	9	(11)	(19)	(1)
連結売上高	6.9	(20)	5	(5)	(19)	(1)

1株当たり利益

2009年第1四半期の1株当たり利益について、特別項目を除いて主な要因別に前年同期と比べた変化は以下のとおりである。

＜1株当たり利益の変化（対2008年第1四半期）＞

2008年第1四半期の1株当たり利益	\$1.31
現地価格	\$0.37
変動費*	(\$0.16)
販売量	(\$0.62)
稼働率の低下**	(\$0.18)
固定費*	\$0.05
為替	(\$0.18)
為替差損	(\$0.02)
法人税率	\$0.02
その他***	(\$0.05)
2009年第1四半期の1株あたり利益	\$0.54
* 販売量および為替の影響を除く	
** 通常は在庫に反映される、生産量低下の結果費用として計上された固定製造原価	
*** 支払利息、医薬品事業および持分法適用会社からの収入、およびポートフォリオの変化による影響などを含む	

事業部門の実績

以下の表は、2009年第1四半期の事業部門別の売上高と対前年同期比増減率、および税引前営業利益（損失）を示したものである。事業部門全体の業績は、農業・食品事業および医薬品事業の税引前営業利益の増加を反映し、他の4つの事業部門における大幅な減益を埋め合わせる以上のものとなった。これら事業部門での減益は、売上が前年同期比30%減となったことが主な要因であるが、全社規模の固定費削減プログラムによる効果、およそ2億5,000万ドルによって一部相殺された。

	事業部門別売上高*		要因別増減率 (%)		
	2009年 第1四半期 (10億ドル)	対前年同期比 増減率 (%)	米ドル建て 価格	販売量	事業ポート フォリオ/ その他
農業・食品関連事業	3.1	6	5	1	-
塗料・色材技術事業	1.2	(30)	(1)	(29)	-
電子・情報技術事業	0.7	(32)	(1)	(31)	-
高機能材料事業	0.9	(45)	(3)	(39)	(3)
安全・防護事業	1.0	(24)	(5)	(18)	(1)

* 事業部門別売上高には部門間の取引が含まれる。

税引前営業利益／損失

税引前営業利益/ (損失) (100万ドル)	第1四半期	
	2009年	2008年
農業・食品関連事業	852	786
塗料・色材技術事業	(19)	190
電子・情報技術事業	(54)	175
高機能材料事業	(146)	219
安全・防護事業	72	272
成長基盤事業部門合計	705	1,642
医薬品事業	252	235
その他	(44)	(26)
事業部門合計	913	1,851

以下は、事業部門ごとに売上および税引前利益（損失）を前年同期と比較した、2009年第1四半期の業績に関する概要です。販売価格の変化に関する記述については、為替の影響も含め、すべてUSドル建てで示されています。

農業・食品関連事業

- 第1四半期の売上は、農業関連製品の価格の上昇、ならびに北米およびヨーロッパでの種子製品の販売量の増加を反映し、前年同期比6%増の31億ドルとなり、一部

為替の影響と相殺された。

- 当期の税引前営業利益は、売上増を要因として前年同期比 8%増の 8 億 5,200 万ドルとなり、大幅な為替差損と投入原価の増加により一部相殺された。

塗料・色材技術事業

- 全ての地域および事業での広範な落ち込みを反映し、売上は 30%減の 12 億ドルとなった。
- 税引前営業利益は、販売量の減少と為替差損を反映して 1,900 万ドルの損失となったが、コスト削減効果と現地価格の上昇により一部相殺された。

電子・情報技術事業

- 販売量の 31%減、および現地価格の 1%減を反映し、売上は前年同期比 32%減の 6 億 9,600 万ドルとなった。販売量の減少は、多くの電子材料および一般産業財市場のサプライチェーンで大幅な在庫調整が生じていることを反映している。
- 税引前営業利益は、販売量の減少と投入原価の上昇に伴い 5,400 万ドルの損失となり、固定費の削減効果により一部相殺された。

高機能材料事業

- 全ての地域の主要な市場での落ち込みに加え、特に自動車および一般産業財市場での在庫調整と最終需要の減少が重なり、売上は同期比 45%減の 9 億 4,200 万ドルとなった。
- 税引前営業利益は、販売量の減少と原材料コストの上昇を反映し、1 億 4,600 万ドルの損失となったが、固定費削減効果により一部相殺された。

安全・防護事業

- 販売量の 18%減、販売価格の 5%減に伴い、売上は前年同期比 24%減の 10 億ドルとなった。全製品を通じ販売量の減少が見られるが、北米およびヨーロッパの自動車、建設および一般産業財市場での落ち込みが最も顕著である。
- 税引前営業利益は、販売量の減少による影響から 7,200 万ドルとなった。

各事業部門の業績に関するその他の情報につきましては、米国本社ウェブサイト www.dupont.com DuPont Investor Centerのページをご覧ください。

2009 年度の経費削減および生産性に関する対策

デュポンは、コストおよび資産の削減に関する 2009 年度目標の引き上げを含め、低迷する世界市場の状況に対処し、長期的な競争力強化に向けた活動を展開しています。以下は、同社における新たな対策に関する概要です。

- デュポンは、2009年における固定費の目標削減額を7億3,000万ドルから10億ドルに増加します。当社は2008年12月、6億ドルの固定費削減プロジェクトと、2009年に向け1億3,000万ドルの益をもたらす事業再編プログラムを開始しました。請負業者への外注業務および作業工程の削減を含め、さらに2億ドルのコスト削減策を決定しました。また、現在さらなる事業再編策の計画を策定中であり、税引前7,000万ドルの節減と2009年度のキャッシュフローに明確な利益をもたらすことを目的として、第2四半期には計画をまとめ、承認を得る予定です。本計画は、2008年12月に発表した事業再編計画の追加策となります。
- 当社は2009年度の設備投資額について、16億ドルから14億ドルに減額します。この額は2008年度の設備投資額20億ドルに対し30%の減少となります。
- 運転資本の削減計画も確実に進行しており、以前発表したとおり2008年に比べ10億ドルの改善が見込まれています。
- 上述の対策に基づき、2009年通年でのフリーキャッシュフローは、およそ25億ドルを維持するものと予想されます。

展望

米国デュポン社は、特別項目を除いた2009年通期の利益予想を下方修正し、1株当たり1ドル70セントから2ドル10セントまでの範囲になるとの見通しを示しています。今回の修正は、2009年全般にわたり主要市場での需要の低下が引き続くだろうとの予測に基づくものです。世界の農業市場の好況とコスト削減によるメリット、原材料コストの減少が予想される一方、長期化する不況感と為替の影響が同社の利益拡大に歯止めをかけるものと思われます。デュポン社では、種子製品や太陽光発電など、高成長、高利益をもたらす事業に対し適切な水準の投資を行っていくことに加え、コストおよび設備投資を削減する積極策を引き続き推進していきます。

当社では、2009年の第2四半期について、いくつかのバリューチェーンでは在庫調整の減少から順次改善の兆しが見られるものの、農業以外の市場で引き続き需要の低迷と為替による負の影響から、収益の拡大は限定的であると予想しています。農業・食品関連事業については、価格および販売量の増加により前年同期に比べ穏やかな伸びを示し、為替の影響を一部相殺するものと予想しています。当社は、次の四半期も引き続きコストおよび資本の削減計画を積極的に推し進めていきます。

#

以上